

2020年度秋の三者総会 議案書

令和1年 10月14日(月)～10月21日(月) 開催

本議案書は、令和1年10月14日(月)～10月21日(月)開催の、2020年度秋の三者総会に提出されたものである。

目次

1	2019年度決算(案)	1
1.1	収支の概要	1
1.2	参加者からの受け取り金・ホテルへの支払い金	2
1.3	収入	2
1.3.1	素粒子論グループよりいただいた援助金の用途	3
1.3.2	基研からの援助金の内訳	3
1.4	支出	3
1.4.1	各役職校の支出内訳	4
2	2020年度予算案	5
2.1	収入予定(概算)	5
2.2	支出予定	6
2.2.1	各役職校の支出内訳	7
3	素粒子論パート講義数に関して	9
3.1	現状と問題点	9
3.2	提案	9

1 2019年度決算(案)

文責：松本信行(京都大学)

[’19/08/31 現在]

2019年度決算(案)を以下の通り提出いたします。何卒ご承認をよろしくお願い申し上げます。

1.1 収支の概要

- (+)が収入を、(-)が支出を表す。

項目	本年度決算	前年度決算
参加登録費	+¥876,000	+¥948,000
素粒子論グループ援助金	+¥450,000	+¥450,000
基研援助金	+¥499,912	+¥500,000
個人からの援助金	+¥1,190*1	+¥0
前年度繰越し金	+¥755,745	+¥859,876
旅費補助(招待講師)	-¥0	-¥102,160
旅費補助(学生)	-¥1,164,100	-¥1,342,840
ポスター印刷費	-¥99,012	-¥0*2
役職校支出	-¥513,416	-¥557,131
次年度繰越し金	¥801,775	¥755,745

*1: 一部招待講師の方々より援助金をいただいた。

*2: 前年度では、ポスター印刷費が役職校支出に含まれている。

- 講師および学生参加者の宿泊費合計を次の表にまとめる。

項目	本年度決算	前年度決算
講師宿泊費	¥166,860	
学生宿泊費	¥6,996,154	
合計	¥7,163,014	¥8,021,900

1.2 参加者からの受け取り金・ホテルへの支払い金

- 講師および学生参加者から頂いた ¥8,039,014 の用途を次の表にまとめる。

項目	金額	備考
講師宿泊費	¥166,860	原子核三者若手の収入として計上
学生宿泊費	¥6,996,154	
参加登録費	¥876,000	
合計	¥8,039,014	

- ホテルへの支払い金 ¥7,576,394 の内訳を次の表にまとめる。

項目	金額	備考
講師宿泊費	¥166,860	原子核三者若手の支出(三者準備校支出)として計上
学生宿泊費	¥6,996,154	
設備使用料	¥413,380	
合計	¥7,576,394	

1.3 収入

(1) 参加登録費(学生参加者:219名): $¥4,000 \times 219 = ¥876,000$

(2) 外部団体からの援助・協賛金: ¥949,912

(3) 個人からの援助金：¥1,190*1

(4) 前年度繰越金：¥755,745

収入合計：(1) + (2) + (3) + (4) = ¥2,582,847.

団体名	内容	申請額	援助額	差額
素粒子論グループ	旅費	¥450,000	¥450,000	¥0
基研	講師旅費 (学生発表者含む), ポスター印刷費	¥500,000	¥499,912	-¥88
高エネルギー研究者会議	協賛	¥0	¥0	¥0
仁科加速器センター	協賛	¥0	¥0	¥0
KEK	協賛	¥0	¥0	¥0
RCNP	協賛, 原子核研究「夏の学校特集号」出版費	出版費	出版費	-
合計		¥950,000	¥949,912	-¥88

*1: 一部招待講師の方々 (3名) より、(¥540 + ¥540 + ¥110) = ¥1,190 の援助金をいただいた。

1.3.1 素粒子論グループよりいただいた援助金の用途

素粒子論グループよりいただいた援助金 ¥450,000 の用途を次の表にまとめる。

項目	金額
旅費補助 (学生)	¥450,000
合計	¥450,000

1.3.2 基研からの援助金の内訳

基研よりいただいた援助金 ¥499,912 の内訳を次の表にまとめる。

項目	金額
旅費補助 (学生発表者)	¥400,900
ポスター印刷費	¥99,012
合計	¥499,912

1.4 支出

(1) 旅費補助：¥1,164,100 (内訳：招待講師 ¥0, 学生 ¥1,164,100)

(2) ポスター印刷費：¥99,012

(3) 役職校支出合計：¥517,960 (支出の内訳については次の表および次節を参照)

支出合計：(1) + (2) + (3) = ¥1,781,072

次年度繰越し金：(収入合計) - (支出合計) = ¥801,775 (対前年差 + ¥46,030)

役職名	予算	決算	差額	前年度決算
三者				
センター校	¥12,000	¥8,943	-¥3,057	¥37,307
事務局校	¥0	¥0	¥0	¥0
準備校	¥492,694	¥492,694	¥0	¥504,460
素粒子論パート				
事務局校	¥0	¥0	¥0	¥0
準備校兼講義録校 (場の理論)	¥16,500	¥13,761	-¥2,739	¥14,284
講義録校 (現象論)	¥0	¥0	¥0	¥0
講義録校 (弦理論)	¥0	¥0	¥0	¥0
原子核パート				¥0
センター校	¥0	¥0	¥0	¥0
準備校	¥2,562	¥2,562	¥0	¥1,080
ハラスメント対策委員	¥0	¥0	¥0	¥0
合計	¥523,756	¥517,960	-¥5,796	¥557,131

1.4.1 各役職校の支出内訳

- 三者センター校 (京都大学)

項目	予算	決算	差額	前年度決算
振込手数料	¥12,000	¥8,943	-¥3,057	¥11,807
賞状代	¥0	¥0	¥0	¥1,120
高エネルギー春の学校参加補助	¥0	¥0	¥0	¥24,380
合計	¥12,000	¥8,943	-¥3,057	¥37,307

振込手数料：ホテル利用料、および旅費補助の支払いにかかる振込手数料

賞状代：研究会で優れた発表を行った人への賞状代

高エネルギー春の学校参加補助：春の学校への参加費 (目的:夏の学校への参加を願ひ)

- 三者準備校 (金沢大学、九州大学)

項目	予算	決算	差額	前年度決算
施設使用料	¥413,380	¥413,380	¥0	¥270,000
コピー代	¥0	¥0	¥0	¥2,113
消耗品代	¥6,754	¥6,754	¥0	¥19,094
郵送費	¥0	¥0	¥0	¥17,762
会場下見代	¥72,560	¥72,560	¥0	¥20,020
レンタカー代	¥0	¥0	¥0	¥51,855
ポスター制作費	¥0	¥0	¥0	¥99,876
前日入り宿泊費	¥0	¥0	¥0	¥23,740
合計	¥492,694	¥492,694	¥0	¥504,460

施設使用料：講義・研究会などに使用する部屋の使用料

コピー代：書類のコピーにかかる費用 (ポスター印刷は除く)

消耗品代：運営に必要な文具、およびポスター送付にかかる封筒などの物品購入費
 郵送費：各大学へのポスター郵送費
 会場下見代：会場下見にかかる旅費
 レンタカー代：夏の学校期間中に借りるレンタカー代、ガソリン代
 ポスター制作費：ポスターデザイン依頼費
 前日入り宿泊費：準備のため前日入りする人の宿泊費

- 三者事務局校 (大阪市立大学)
 予算申請無し。
- 素粒子論パート準備校 (名古屋大学)

項目	予算	決算	差額	前年度決算
録音・録画機材代	¥3,000	¥2,316	-¥684	¥5,940
ケーブル・端子代	¥5,500	¥5,229	-¥271	¥0
消耗品代	¥2,000	¥1,785	-¥215	¥2,355
機材送料	¥6,000	¥4,431	-¥1,569	¥4,877
ハンドベル代	¥0	¥0	¥0	¥1,112
合計	¥16,500	¥13,761	-¥2,739	¥14,284

録音・録画機材代：録音・録画保存用 SD カード購入費
 ケーブル・端子代：プロジェクターを使用する際に必要なケーブル・端子の購入費
 消耗品代：電池、ホワイトボードマーカーなどの購入費
 機材送料：夏の学校会場および次年度担当校への機材運搬費
 ハンドベル代：ハンドベル購入費

- 原子核パート準備校 (大阪大学)

項目	予算	決算	差額	前年度決算
消耗品代	¥1,812	¥1,812	¥0	¥1,080
印刷代	¥750	¥750	¥0	¥0
合計	¥2,562	¥2,562	¥0	¥1,080

消耗品代：ホワイトボードマーカー、レーザーポインター用の電池
 印刷代：研究会で使用する資料の印刷代

2 2020年度予算案

文責：中川翔太、林祐輝 (東北大学)
 [’19/10/04 現在]

2.1 収入予定 (概算)

- (1) 参加登録費 (参加者想定:220 名) : $¥4,000 \times 220 = ¥880,000$
- (2) 外部団体からの援助・協賛金 : ¥950,000

団体名	内容	申請額
素粒子論グループ*1	旅費	¥450,000
基研*2	講師旅費(学生発表者含む), ポスター印刷費	¥500,000
高エネルギー研究者会議	協賛	¥0
仁科加速器センター*3	協賛, 原子核研究「夏の学校特集号」出版費	出版費
KEK	協賛	¥0
RCNP	協賛	¥0
合計		¥950,000

*1: 本年秋季学会にて援助申請を行う。

*2: 2019年度1月頃申請予定。

*3: 次回春季学会にて申請予定。

(3) 前年度繰越金: ¥801,775

収入合計: (1) + (2) + (3) = ¥2,631,775.

2.2 支出予定

(1) 旅費補助: ¥1,570,108

(2) ポスター印刷費: ¥99,012

(3) 各役職校支出: ¥160,880 (詳細な内訳は次節に記載)

役職名	本予算案	前年度決算
三者		
センター校	¥14,000	¥8,943
事務局校	¥0	¥0
準備校	¥125,880	¥492,694
企画校*1	¥2,000	¥-
素粒子論パート		
事務局校	¥0	¥0
準備校	¥15,000	¥13,761
講義録校	¥0	¥0
原子核パート		
センター校	¥0	¥0
準備校	¥4,000	¥2,562
ハラスメント対策委員	¥0	¥0
合計	¥160,880	¥517,960

支出合計: (1) + (2) + (3) = ¥1,830,000

次年度繰越し金: (収入合計) - (支出合計) = ¥801,775 (対前年差 + ¥0)

*1: 2020年度より新設。

2.2.1 各役職校の支出内訳

- 三者センター校 (東北大学)

項目	本予算案	前年度決算
振込手数料	¥12,000	¥8,943
賞状代	¥2,000	¥0
合計	¥14,000	¥8,943

振込手数料：ホテル利用料、および旅費補助の支払いにかかる振込手数料

賞状代：研究会で優れた発表を行った人への賞状代

- 三者事務局校 (早稲田大学)
予算申請無し。
- 三者準備校 (新潟大学、筑波大学)

項目	本予算案	前年度決算
施設使用料 *1	¥0	¥413,380
施設予約金 *2	¥0	¥0
コピー代	¥5,000	¥0
消耗品代	¥10,000	¥6,754
郵送費	¥20,000	¥0
会場下見代	¥50,880	¥72,560
レンタカー代	¥40,000	¥0
ポスター制作費 *3	¥0	¥0
合計	¥125,880	¥492,694

施設使用料：講義・研究会などに使用する部屋の使用料

予約費：ホテル仮予約のために必要な経費

コピー代：書類のコピーにかかる費用 (ポスター印刷は除く)

消耗品代：運営に必要な文具、およびポスター送付にかかる封筒などの物品購入費

郵送費：各大学へのポスター郵送費

会場下見代：会場下見にかかる旅費

レンタカー代：夏の学校期間中に借りるレンタカー代、ガソリン代

ポスター制作費：ポスターデザイン依頼費

*1: 利用者数が多いことから無償提供を受ける見込み。

*2: 施設予約金は過去に利用実績があることから不要。

*3: 基研からの補助で賄うため、三者準備校の予算には計上していない。

- 三者企画校 (お茶の水女子大学)

項目	本予算案	前年度決算
消耗品代	¥2,000	¥-
合計	¥2,000	¥-

- 素粒子論パート事務局校 (千葉大学)
予算申請無し。
- 素粒子論パート準備校 (大阪大学)

項目	本予算案	前年度決算
録音・録画機材代	¥6,000	¥2,316
ケーブル・端子代	¥0	¥5,229
消耗品代	¥3,000	¥1,785
機材送料	¥6,000	¥4,431
合計	¥16,000	¥13,761

録音・録画機材代：録音・録画保存用 SD カードなどの購入費

ケーブル・端子代：プロジェクターを使用する際に必要なケーブル・端子の購入費

消耗品代：ホワイトボードマーカーなどの購入費

機材送料：夏の学校会場および次年度担当校への機材運送費

- 素粒子論パート講義録作成校 (北海道大学)
予算申請無し。
- 原子核パートセンター校 (北海道大学)
予算申請無し。
- 原子核パート準備校 (名古屋大学)

項目	本予算案	前年度決算
消耗品代	¥3,000	¥1,812
印刷代	¥1,000	¥750
合計	¥4,000	¥2,562

消耗品代：ホワイトボードマーカー、クリーナー、電池などの購入費

印刷代：研究会で使用する資料の印刷代

- ハラスメント対策委員
予算申請無し。

3 素粒子論パート講義数に関して

文責：阿部慶彦 (京都大学)、川井直樹 (大阪大学)

3.1 現状と問題点

2019 年度まで、原子核三者若手夏の学校 (以下、夏学) 素粒子論パートのパート講義は、弦理論パート、場の理論パート、現象論パートと 3 種類のもので開講されてきた。

一方、夏学は学生の研究会という面も大きく、ここ数年は素粒子論パートの学生の発表者数が多くなってきており、特に近年は参加者数全体に対する発表者数の割合は増大している。この大量の発表者を研究会で消化するため、2018 年度には一人当たり 10 分の発表時間を設け、長時間の研究会を開催することで対応した。2019 年度にはレビュートークをポスター発表に限定し、口頭発表の時間を 20 分とすることで研究発表をしっかりとしたものとした。しかし、それでも発表者の数を消化することができず、原子核パートの会場を借りてパラレルセッションを開催することで解消した。この研究会パートを充実させる方針は今後の夏学でも踏襲する。

ところが、2019 年度夏学における三者総会において、夏学の規模縮小の方針が採択され、2020 年度から夏学の日程が短くなることが決定している。近年の傾向を踏まえると、発表者の人数が今後減少していくことは期待しにくく、会場等の制約によってパラレルセッションが可能でない場合、全ての学生発表を消化しながら講義を現状のまま 3 種類を 3 コマずつ行うのは非常に難しい。

3.2 提案

我々は

- 発表を希望する学生の発表は、(可能な限り) 全て発表できるようにする
- パート講義一つあたりの時間を十分に確保し、参加者全てがしっかり講義テーマについて基本から最先端の話題まで学習できるようにする

この 2 点を両立するため、**現在 3 種類開講されている素粒子論パートのパート講義を 2 種類に減らすことを提案する**。この 2 種類のパート講義で扱う内容としては、具体的には arXiv を参考に hep-th, hep-ph から講師を 1 人ずつを基本とし、夏学開催後に行われるパート講義の講師希望の募集を参考に適宜講師を選んでいくこととする。